

刊夕日七十月五



定価 一部金五銭 五部金五銭 郵費五部  
廣告料 五部金五銭 一行金五銭  
日曜祭日の翌日休刊  
発行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日新聞社

園藝の話 (三)

中野農人

物足りない市街  
今では大阪の方が反つて、青々と見える位だ。大火災を受けなかつた山の手方面でも、當然の樹齡と文明の壓迫から、果敢なく地上から消えたものが多い。根岸の御行の松、神宮外苑のナンドヤモンデヤの木(ヒトツバタゴ)谷中經王寺の法華經櫻、駒込千駄木町の寢釋伽櫻、小石川表町の糸櫻、舊市外では板橋の縁切櫻、吾嬬の森の相生の樟、數へ出したら限りが無い、悠うして東京の雰圍氣は、古蒼鬱密の樹影が消えて、大地が混凝土に引伸をされるのである。板橋の縁切櫻のみは、後継者が可なり育つて来たけれども、他の多くは植繼いで呉れる者が無いから、古木の形骸が見すばらしい蕪を着て、人の憐れみを俟つたり、普請小屋の様な四分板の屋根の下に、獄門首のやうに曝されてゐるのみ、今にして若木を植えてなりとも、絶家再興の工夫をするのが、由緒ある名木に忠なる所以である。

濃艶、それにも飽き、飽かぬまでも、庭園や空地といふ贅澤な物を持たぬ結果は小さい草花に向つて、好尚の潮流が押し寄せるのは自然の結果である。寸々にして地に藉き、綠葉紅紫紫葩白莖、宛ら草木の生ける雛形のやうな可憐の珍奇、しかも天壇標漂の雲霧の上に咲き出るものであるから、皎潔玉よりもつややかなるが、盆養第一の身上であるこれを我盆裁術の技巧を以て、方圓深淺適宜の鉢に植込むものに對すると倏忽として座間に清風吟じ、高田崇靈の氣が、俗間熱鬧の衢を清掃して呉れるところに高山植物の有難味がシミ(と)味はれる。どう考へても、山草熱は益々旺盛になるべき運命を持つてゐる。明治の末葉から大正の始めにかけて、數年の間大いに物興の氣勢を見せた山草熱が、いつしか影をひそめ息を殺して雌伏したのは培養難から匙を投げられた結果である。然し當時の山草家なるものは山草に對する研究が方角違ひだつたり、或ひは認識不足から飛んだ穿き違ひをして居たのである。ところが今日の山草愛者は、其天然の性に順つて高山植物箇々の性質や特徴を呑込むで了つたら、培

養難などと云ふ關所は通り越して、下界に於いての蕃殖乃至は園藝上の變品をさへ輩出するやうになつた。清涼な山地でさへ、栽培困難の長歎息を發したものが沙風の吹きさらす高温度の海濱でさへ、見事に作つてゐる。其一例としても其以前は水苔や腐殖土泥炭土などを唯一の武器にしたのが今では研究の結果として火山灰、天神川砂、花崗砂、玉川砂、大磯砂、鹿沼土の類が、お好み次第に膳立をされて、箸を取るのを俟つてゐる。

俳句

岡小名

飯田野川

こは岡小名の寺の畫の木蓮華  
寺の夜のくらは蛙のこゑと浪の音  
日連さまうごかす居られに經をあげます  
菩薩のみすがたや和尚さんと茶をのんで  
初めの夜の蒲團に居るを蛙鳴く  
宵は竹林のうへの空それから星が  
あかいつきにさんぼどうしで  
ゆきてはまたかへるとはいやるなみ

旭硝子株式會社製品  
赤菱印 板ガラス  
硝子 子 壺  
硝子 食器  
其他 各種  
松崎硝子製作所  
平町新川町(電話一四二番)  
仙臺市榮町(電五九七番)

おなじみの魚清  
うまみ  
賣始めました。  
どろろ御用命を……  
かばやき 五十錢  
うなどん 五十錢(重入)  
三十五錢(井入)  
多量御注文の際は相談に應じます

魚清食堂部  
出前持至急入用  
希望者ハ大至急来店アレ御委細面談優遇ス

34年型新車購入  
快ろよい微風が頬をかすめ  
吹く……野邊に、海邊に  
アタタのリーベとの遠乗りに  
散策に一御私用に一是非御愛  
乗下さい。  
セリサワのニュー・カーを!  
平・三 芹澤タクシー  
電 395

ゼアラの自轉車 代理店  
宮田自轉車  
平局御用 エビスヤ自轉車店  
平南町 電話六六四番  
宮田自轉車九平度郵便局納め  
五千二百輛  
小店員入用 貳名(十五、四才)

外科 門專  
科線光X  
上田外科醫院  
平町南町  
電話一九二番  
阿部藥舖  
平・田町(松月堂向)

# 鯉漁船 出動す

## 千葉沖に大群接近

### 餌付頗るよしの快報

縣水産指導船磐城丸は既報の如く千葉縣野島沖合に於て鯉、鮪の魚獲中であるが一昨十五日同沖合でトンボ鮪を五百本釣獲したがその後同沖合で水色を變するばかりの鯉の大群を發見、直ちに餌鮪を投げた處餌付頗るよしの快報が小名濱水産試験場に到着したので今迄待機してゐた各漁大型漁船は勇み立ち早くも今朝小名濱より三艘出港したのを初めとし明日迄には全部一齋に漁場目がけて出動する

### 御劇務の餘暇に

#### 炭礦其他へ

#### 久邇宮殿下の

#### 御視察御豫定

來る二十四日小名濱に來港される軍艦木曾に砲術長として御乘艦遊ばさる久邇宮朝融王殿下が勿來關趾にお成りの御豫定は

昨報の如くであるが右御日程は同艦が平潟鏡泊中に御見學遊ばさる御模様で小名濱入港後の久邇宮殿下には御劇務の餘暇を御割き遊ばされて豊間鹽屋岬燈臺、沼ノ内辨財天及び炭礦方面へ(多分は磐城炭礦を)

#### 御見學

遊さる趣き今朝縣を通じて平署に内報あり横山署長は當日の御警衛その他に萬遺憾なきを期する爲めけふ午前十時小名濱

### 對抗球技

#### 平第二小校で

平第二小學校では來る廿一日正午より校庭に於いて四年以上の學級對抗球技會を行ふが種目は四年、五年がデットボール六年以上はバスケツトボールであると

### 小名濱から

#### 先進地視察

町に至り同町當局と種々打合せを行つてゐるが昨年末東久邇宮第二師團長宮殿下の石城郡下御視察の光榮に浴した石城の天地はこの再度の光榮に恐懼感

### 徴兵検査執行官は

#### 本郡出身の佐川中佐

#### 昨日より開始

既報郡下の本年度壯丁検査は愈よ昨十六日午後一時より平第一校講堂で大野、大浦、草野三村壯丁の學力考査より開始されたが検査執

である

### 軍隊見學日記

平商業學校四年生六十五名の仙台工兵二大隊見學は駒場教官引卒のもとに廿八日午前五時卅分平驛を出發當日午後一時廿分に着陸し左記プログラムに依つて見學を行ふと

(廿八日)兵營見學(廿九日)中隊教練見學並に實習爆破教練見學(卅日)狹

### 縣下對抗を控へ

#### 磐中の小手試し

來る七月中旬平町に開催される縣下中等學校野球大會を控へて地元磐城中等學校及び平商業學校では必勝を期し目下猛練習を行つてゐる

が磐中野球部では本年度最初の郡外對校戦を來る二十日安積中學校グラウンドに於て行ふことになり當日は安積、會津の兩中學と磐中の三つ巴戦が展開される筈で磐中では同部の眞價をこの一戦に發揮せんと意氣込んでゐる

#### 磐中野球指導

磐城中等學校野球部では目下早大出身多田選手を招き猛練習を行つてゐるが別項の如く安中會中との對校戦を控へてゐるので更に池田元六大學リーグ專屬審判員を招聘コーチを受ける事になつかが同氏は一兩日中に來平する筈

#### 入遠野農事會

入遠野女子青年團では十九日同

### 教育研究出席

來月十五日福島市で開催される初等教育研究會に郡下各小學校よりの出席者左の六氏である

田人佐藤清藏、泉鈴木考雄、磐崎高木愛治、平第二海野磐男、平第三長谷川榮、四倉助川光夫

### 常設館だより

村小學校に總會を開き郡農會米山技手の農事講演があ

### 常設館だより

平 館 大都現代劇 海江田讓二、藤間林太郎、佐久間妙子主演「街の灯」日活時代劇 全發聲、田村邦男、高瀬實乘主演「彌次喜多」第三篇 日活時代劇 片岡千恵藏、水の江澄子主演「風雲」後篇十七日

### 世界館

新興時代劇阪東妻三郎森静子主演「燃える富士」松竹現代劇サウソンド版藤井貢坪内美子主演「大學の若旦那」松竹時代劇全發聲林長二郎飯塚敏子主演「二つ燈籠」

### 平町人事

△鎮町二 大原房二氏二女延枝さん

### 結婚・姻

△長橋町五二寒風澤庄治郎氏(二七)草野村泉崎渡邊スエさん(二二)  
△長橋町四一 渡邊松治郎氏(三五)  
△十五丁目二〇 當時東京府小笠原島父島大村字本町九三高田キヨさん(二二)

### 平一百面鏡

#### 日東商會

#### 本町進出

良品を撰擇 電氣機械器具其他諸機械取賣店日東商會では此程平二丁目の新築に移轉し店舗を擴張したが今後も尙一層顧客の忠實な仕入店たる事を自覺し専ら良品の撰擇に努め他店員をリードする様細心の注意を拂ふ由

#### 原齒科

#### レントゲン科

平町土橋通り原齒科醫院は院長原精一氏及び專屬齒科醫が患者本位に勉めてゐるので各方面より頗る人氣を博してゐるが今般斯界の先端を切りレントゲン科を新設患者の爲め一層の便宜を圖り診療の完備を期して居る

#### 牡丹咲き

#### 如來寺へ團體

二十日牡丹咲誇る福支部四倉如來寺に於て弘法大

師千百年祭が行れるので目下團員募集中であるが會費は一圓三十錢(平、四倉間片道汽車賃、料理壽司折詰、護摩札)で參加希望者は至急四町目ト印、三丁目阿部源田町初音、南町玉よし、二丁目魚清、一丁目藤寅、胡摩澤佐藤寛三氏方へ申込まれたいと

# 美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

### 看護婦急派

の求めに應じます

### 平看護婦會

平町南町 電話三〇七番

# せまい鐵道線路を

## 二千人が目白押し

### 通學生が最も多いと

#### 平驛の注意書

平驛では常磐線のスピードアップ此と共に上下各列車の事故防止を爲め此程十日間に亘つて平、綴驛間及び綴、湯本間に於いて一般の線路通行人数を調査した處一日の通行者数は通學生が最も多い日で百四十名少ない日でも四十名あり一般者は最高百三十三名、最少四十名で十日間に是等の合計が千九百廿四名に達して居る、就中通學生は朝の登校時間である午前七時から八時帰宅、時間の午後三時から四時頃にいづれも一圓となつて狭い線路を通行し列車運轉上非常に危険

が多いので本日平町の各中等學校に左記注意書を發したが一般者も相當注意あり度といふ

一、踏切以外の線路内は立入らぬ事

一、鐵橋や隧道内の通行は絶対にせぬ事

一、踏切通行の際は左右を確めて横切る事

一、列車の通つた後は反對列車の來ぬ事を確める事

一、風雨の時は列車の接近に氣が付かぬ場合が多いから特に注意する事

一、線路の附近で子供を手放さぬこと

# 石炭カ

## ガスが発生

### 池中の大鯉瀕死

#### 公園辨天池に放流

平町片倉磐城製糸工場では同所の池に鯉を飼養してゐたが近く池を埋立てる方針で数日前から石炭殻を投げ込み始めたところ十四日午後に至り二尺餘の大鯉を始め魚類千尾が浮き上り瀕死

の状態になつたので同所では驚き直ちに掬ひ上げて十五日平町松ヶ岡公園の辨天池に大多數を放流した、原因は水中の石炭殻からガスが発生したものらしいと言はれてゐる

# 軍樂演奏

## 諸般の準備

平町在郷軍人分會では別項の如く木曾軍樂隊が二十五日來平する事に決したので演奏會場時間その他を協議するため本日午後一時から平町藤田分會長宅に役員會を開いた

# 團長は

## 再選要望

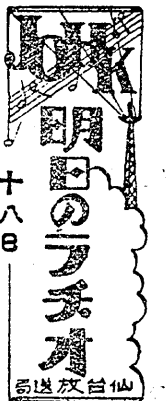
### 青年團總會

平町青年團では本月廿七日平第一小學校に總會を開き豫算決算を附議役員改選を行ふ筈であるが團長にはその圓滿なる人格の處有者である現團長の柴田徳二氏を推する聲が専ら高いから異動ないものと見られて居る

# 豫報旗で

## 天氣を警戒

平窪村では過般來春蠶繭立を開始した養蠶家の爲め毎日小名濱測候所に照會役場前に晴は白、曇は赤、雨は青と言ふ様に旗を立て天氣豫報を行つてゐるが養蠶家



今晚も明日も南西の風晴曇半す

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間

お話名馬陸奥の花小笠原義雄

後六、二五 漢文講座(終)

講菅谷軍次郎

後七、三〇 講演「京城より京城」帝大教授醫學博士杉原徳行

後八、〇〇 映畫劇「河の上の太陽」新興キネマ現

代劇部高田稔小杉勇外

後八、四〇 清元 忍岡戀

曲者清元延志葉外

後九、〇五 歌謡曲

後九、〇〇 時報 ニュー

氣象通報 番組豫告

明日の部

# 木曾軍樂隊

## 三十三名派遣

### 木曾艦より回答來る

既報一平町在郷軍人分會では軍艦木曾の來港を機として同艦の軍樂隊を招聘して非常時下の國民の意氣を揚げるべく交渉中であることは既報したが同艦では之に對し來る二十五日午後軍樂隊員三十三名を派遣する旨昨日回答し來つたが平地方に於ける軍樂隊の公演は數ヶ年ぶりの事として各方面より公演の日を待望視されてゐる

# 貧兒教育の

## 椎名校長

### 教育會で講演

石城郡教育會では來月三日前九時より第一小學校講堂で總會を開き會計報告會員の意見發表あつて東京橋區大富小學校長椎名龍徳氏の講演あり正午からは五ヶ年間無欠勤訓導及び廿ヶ年勤続訓導の表彰式が行はれる

# 第二聯合体操

## 平第一小學校

二小學校では本日正午より校庭に於いて六年以上各學年の聯合体操を行つた

赤十字看護婦 警女

十四回卒業生大野村宇小湊

木村タケさんは今回日本赤十字本社看護婦試験をバ

前六、三〇 基礎英 講座 (十八)岡倉由三郎

前七、一〇 聖典講義 觀

香經五玉置頼見

前九、一〇 料理談話「支那料理」佐藤百合子

前一一、三〇 家庭メモ

前一〇、三五 家庭婦人講座「國際善意デーに際して」

後〇、〇五 説教節「三莊太夫一代記」若松若夫

後一、五〇 野球試合實況豫備日

後二、〇〇 家庭大學講座「日常生活と法律」大審院判事 三宅正太郎

後三、三〇 大角力夏場所實況(八日)兩國國技館より中繼

後六、〇〇 極東大會水上競技實況(第六日)マニラより中繼

後六、二五 基礎佛語講座(十二)丸山順太郎 講演の夕

後七、三〇

後八、〇〇 最近國際政局の動向 法學博士 山川端夫

後八、三〇 阿部房次郎

後九、〇〇 管絃樂 日本放送交響樂團

# 裁判所たより

△泉村字八木屋居住土工舟生仁(三三)は昨年十二月十六日泉驛構内に於いて仕事の事から同僚である内郷村宇金坂近藤丹三郎と口論を初め丹は自宅から刃渡二尺六寸の日本刀を持出して近藤の背部を刃の峯で殴打し日本區裁判所に於いて略式命令により暴行罪として罰金廿圓に處せられた

# 平職界紹介所報告

△人々を求め方

△女中 二十一 四十才 尋

△女中 二十才以下 尋

△女中 四十才以上 尋

△女中 四十才以上 尋

△女中 四十才以上 尋

# 木村外科醫院

平町六丁目橋際 電話三九〇

△女理髮職 十五一十八才 尋 仕着小使

△自動車修繕工 十八才 高卒

△炊事婦 五十一才 無學

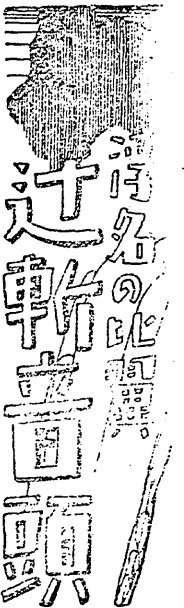
△商店員 二十九才 尋卒

△石工 四十二才 高卒

△石工 二十八才 尋四修

△土工 四十五才 中二修

△配運夫 二十六才 高卒



(新編上段及上巻)

田邊南龍(作)  
山本英春(監)

三四  
賣出した男に疵

そこで本多のお屋敷から御親戚のお大名へお話になつたから此方も頼もう、當屋敷も頼むと長兵衛の方へ申込んで来る其處で長兵衛が往つて整然と規則を立てる、さあ仕舞には何處の諸候でも出入になつて向ふの屋敷から何十兩何人扶持此方から何十兩何人扱持と貰うから金子や御米が有り餘る位、この金子を遣つて先へ事を爲るから人が云ふ事を聞く、芝居へ行かうとも相撲へ行かうとも吉原へ行かうとも、幡隨院の親方さん元締々々と云つて北斗神明の如くに尊敬する、その時江戸表には町奴と云ふものがあつた、第一に唐犬権兵衛、夢の市郎兵衛、腕の喜三郎、釣鐘彌左衛門、眼玉の喜平、捻金與次兵衛、白鬼権三など、云ふ者は博奕を打つを半分家業となし或は四谷六法白柄組に入組して、手振といつて御供をして歩き喧嘩でもあると引受ける、早く云ふと用心人その衆達は料理屋へ行けば飲つ放し、貸せと云やアモ返しつこはない、貸さないと云やア酒の中から塵が出たとか、茶碗へ茶葉を付

いて居るとか云つて、掛り合を付けて喧嘩を起す、實に放蕩無頼の曲者で毛虫の様に町では嫌がつて居る、旗本の内では水野十郎左衛門、諏訪藤右衛門、近藤登門、松平左衛門、松平三

「夜更けてカラ〜表を通るは何じやいな、あれは旗本仁義組」と云ふ歌がありました、芝居狂言でも六法と云ふものを踏むから、白柄組の人達はあんな歩き様をいたしたものと見える、その町奴男達長兵衛を憎み「此間まで幡隨院の穴つ堀りをして居やがつて、急に男になつたもんだから大きな面をして居る、何かあつたらケチを付けて遣らう」と焼つてゐるが長兵衛も然るもの往來で出逢つたと



十郎、明東勘四郎、海老與右衛門、長坂血槍九郎、池田勘兵衛、大久保彦助など、云ふ旗本は、上の威光を頭に載いて、やゝともすれば素つ破抜をする、その時分の洒落唄に

いへば新道に曲つちまう、料理屋の二階で逢へば裏梯子を降りて歸つちまふ、決して取合ん、何處でかと思つてゐるうちに、妓に淺草花川戸に法華の長兵衛と云ふ人があつた、その子分に四天

王と云はれる隅田の十藏、今戸の権六、橋場の半七、康崎の小平といふ四人の者へ相談をして

「何うぞ長兵衛に、喧嘩を仕掛けて疵を付けて遣りてえもんだが、何うしやう」と云ふと隅田の十藏

「それぢやア親分好い事がある吉原の三浦屋四郎左衛門の抱へた高窓といふ花魁がある、その高窓の所へ本多大内記の家來、庄次郎といふ者が繁々通つて来る、此の庄次郎に喧嘩ア仕掛ければ、元の主人だから必ず長兵衛が飛んで来る、其時喧嘩をしながらやア好いだらう」

是れから高窓の處へ行く高窓は出たくはないが詮方がない出ないと云へば仲ノ町で八文字を踏んでる時に死つたとか放られる馬の糞を放られるから、嫌々ながら高窓は出て居る。

「時に若旦那法華長兵衛が云々であるから高窓花魁の處へ来ると云ふのに仔細はないが、夫れは私を引出さうが爲である」

# 院醫科齒村中

七町冶銀町平

店主	が	店員
を	連	れ
か	れ	る
正	シ	イ
正	シ	イ
正	シ	イ
正	シ	イ
酒場	喫茶	食堂
レスト	サロ	ン

平・田町  
電話三五二番

## 電話一〇八番開設

毎度有難う御座います  
ベーカーリー東京堂もウマイパンとの御評判で喜んで居ります  
此度電話一〇八番を開設致しました  
ドン／＼御利用を願ひます

搔掻小路  
ベーカーリー東京堂  
電話一〇八番

石炭  
コークス  
玉炭



平驛前

阿部石炭商店

電話三七番

## 夏の通學服

15日ヨリ

- ◇小學用霜降小倉服.....40.00
- ◇" " "上口.....85.00
- ◇" " "特製.....1.20.00
- ◇中學用 ".....2.05.00

第二・第三制服も二三日中に取揃ひます。

ふかや洋服店 平電 203



●店員募集  
年齢十五、二十、希望者は至急来店あれ

平町田町通電話六五六番